オーストラリア保育留学

-英語で保育を学び実践し、資格を取得する-

Childcare Study Abroad in Australia:

With Practice in a Childcare Centre

名古屋短期大学専攻科保育専攻 2 年　**山本　世璃佳**

YAMAMOTO Serika

(2nd grade, Diploma course, Nagoya college)

キーワード：保育、オーストラリア、留学

はじめに

こんにちは、山本世璃佳です。私は、名古屋短期大学専攻科保育専攻に在籍し、保育の勉強をしています。名古屋短期大学保育科で 2 年間保育を学び、2014 年 4 月に専攻科に進学しました。専攻科というのは、短期大学卒業後に進学できる課程で、短大、専攻科の、合わせて 4 年間を修了すると、学士(教育学)が授与されます。さらに、この名古屋短期大学の専攻科には、留学タイプというコースがあり、私はこの制度を利用して、専攻科に在学しながらオーストラリアで約 10 カ月間の語学・保育留学を行いました。ここでは、私のオーストラリア留学経験について執筆させていただきます。保育を勉強するために留学の道を選ぶというのは、あまり一般的ではないかもしれませんが、「保育が好きで海外も好き」という方にぜひ一読いただきたいです。

オーストラリア留学のきっかけ

私が、オーストラリアへ留学したいと思ったきっかけは、短大 1 年の時に参加した、「名古屋短期大学オーストラリア保育実習」という研修です。以前から洋楽が好きで、漠然と海外に興味はありましたが、実際に海外に行ったのはこの時が初めてでした。約 2 週間という短い期間でしたが、実際に保育園で 7 日間の実習をさせていただき、とてもかわいい子どもたちや気さくな外国人の保育士や保護者と関わり、また、オーストラリアの美しい自然にも感動し、自分の視野が開けたように思いました。実際にオーストラリアで生活して、現地の人ともっと触れ合ったり、オーストラリアの文化をもっと

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

知りたいと思いました。せっかく生きているのに、このまま海外のことを知らずに生活していくのは本当にもったいないとも感じました。そして、専攻科へ進学して、オーストラリアに留学することを決めました。

名古屋短期大学専攻科保育専攻留学タイプ

私の留学経験を執筆するにあたり、まずは、名古屋短期大学専攻科保育専攻留学タイプについて少し説明させていただきます。この課程は、短大や専門学校で保育士資格と幼稚園教諭の免許状を取得した人が入学でき、専攻科に在学しながらオーストラリアに約 10 カ月留学し、オーストラリアの保育士資格（CertificateⅢ in Early Childhood Education and Care）を取得するとともに、保育・幼児教育について深く学び、学士(教育学)、幼稚園教諭 1 種免許状を取得することを目的としています。留学先は、オーストラリア・クイーンズランド州ゴールドコーストにある名古屋短期大学の協定校である Imagine Education Australia です。最初は語学コースへ 3 カ月間通い、語学力を身につけます。その後、同校の保育コースへ入学し、約 6 カ月間、授業を受けるとともに、約 45 日間の保育実習を行い、オーストラリアの保育士資格を取得します。名古屋短期大学専攻科保育専攻留学タイプは 2009 年に開設され、私は 6 期生になります。6 期生の 15 人（うち 4 人は研究生）のメンバーで、一緒に留学をしました。

Imagine Education Australia の語学コースでの学び

語学コースの授業は、自分のレベルに合ったクラスに分かれて行われます。もちろんオールイングリッシュですので、最初は本当に不安でした。クラスには、今まで関わったことがない欧米、南米、アジアからの留学生がいました。同じ英語レベルのクラスメンバーでありながら、彼らは臆することなく、自信を持ってたくさん英語を話していました。英語に自信がなかった私は、すらすらと英語を話せないことに申し訳なさを感じ、話すのが億劫になってしまったこともあります。しかし、外国人の友達を作り、英語を上達させたいという思いや、毎週行われるアクティビティーや遠足のおかげもあり、だんだん外国人と話ができるようになっていきました。

語学コースでは、もちろん英語を上達させることができたのですが、それよりも、人との出会いが私にとっては大きなことでした。これまで私が接してきた日本人にはない考え方の人がたくさんいて、文化の違いを痛切に感じました。いろいろな価値観、考えをもった人がいて、話をするたびに、私の視野は広がっていきました。そして、その人たちからいろいろなことを教えてもらい、助けてもらい、優しくしてもらって、人と人とのつながりの大切さや人を思いやる気持ちを改めて学ぶことができました。素敵な夢を持った大人にもたくさん出会い、いつまでも夢を持つことの大切さを学びました。本当に、毎日が刺激の連続で、私の中の価値観もがらりと変わりました。英語を学ぶだけでなく、留

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

学でしかできないこうした貴重な体験をすることができました。

Imagine Education Australia の保育コースの授業での学び

3 カ月間語学コースに通い、一定の英語レベルまで達すると、保育コースへ進学することができました。保育コースは、授業が週 1 日あり、現地の保育園での実習が週 2 日ありました。授業では、子どもの発達や、子どもの健康と安全、子どもの福祉について、子どもの人間関係について、保護者との関わりについてなど、保育で大切な基本的なことを学びました。更に、多民族国家であるオーストラリアならではの、さまざまな国の文化や、オーストラリアの先住民であるアボリジニについても学びました。また、日本ではあまり取り上げられない、保育者の労働における健康や安全についてまでも学ぶことができました。授業は実習と並行して行われたため、授業で出された課題を実習で実践することができ、とても具体的な学びをすることができました。

また、保育コースには、オーストラリア人だけでなく、世界各国からオーストラリアの保育を学びに来ている人がいました。経歴は様々で、自国で保育士を経験したのちに、オーストラリアへ来て勉強している人もいて、他国の文化はもちろん、他国の保育についても少し知ることができて、とても新鮮で面白い授業でした。

Childcare centre の実習での学び

私は、Imagine Education Australia 附属の保育園（Childcare centre）で、45 日間の実習をさせていただきました。オーストラリアの保育園は、日本と違うところがたくさんあり、様々なことを学ぶことができましたので、それを紹介させていただきます。

まず 1 つ目に、オーストラリアの保育園はとてもカラフルです。室内の壁は基本青色や緑色で、その壁や天井には、子どもたちが描いた絵や、作ったものが飾られています。それらの子どもたちの作品自体も、とてもカラフルでユニークなものばかりです。先入観にとらわれず、子どもたちそれぞれが感じたようにお絵かきや工作が行われていました。また、ファミリーツリーというものも各保育室に貼ってありました。これは、子どもとその家族の写真を撮り、木に見立てた絵や作り物にそれぞれの家族の写真を貼っておくというもので、保育園にいて、家族が恋しくなった子どもがその写真を見て安心できるようになっています。現在日本では、プライバシーの問題などからこうしたこ

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

とは行われていないので、とても新鮮でした。

2 つ目は、保育のスタイルについてです。子どもの年齢によっても多少異なりますが、日本では、一斉保育と呼ばれる保育スタイルが基本で、「今日はみんなで〇〇をやりましょう」といって、全員で同じことをする時間があり、それが一日のメインの活動となります。一方のオーストラリアでは、子どもたちが、各々自分で好きな遊びを選んで行うというスタイルが基本となっています。日本とは違い、先生は、子どもと一緒に一日中遊ぶというよりは、見守っているという感じです。一見、子どもは好き勝手に遊んでいるし、先生は何もしていないのではないかと思われがちですが、実は、毎日先生が子どもたち一人ひとりをじっくりと観察し、子どもそれぞれの発達、個性、興味関心を把握して、個々に合った遊びの計画を立てて、遊びの環境を設定しているのです。つまり、オーストラリアは、子どもたち一人ひとりに合わせ、発達の違いや興味の違いなど、個々を重視、尊重して遊びを用意するという保育スタイルになっています。

3 つ目に、保育園のクラス編成についてです。日本の保育園と同じように、0 歳から 6 歳まで、年齢ごとのクラスがあるのですが、年齢はあくまで目安とされています。子ども一人ひとりの発達段階に合わせて、親と保育者が相談し、子どもの様子を見ながら適切な時期に、上のクラスに上がっていくという仕組みになっています。子どものうちは、同じ年に生まれた子どもでも、月齢によって発達は異なりますし、個々によっても発達のスピードは異なります。そうした考えから一般的な発達段階にその子どもを無理やり合わせるのではなく、クラス配置を工夫することでその子どもの発達段階にあったクラスで保育を行うということが可能になります。

4 つ目に、外国籍の子どもの受け入れについてです。オーストラリアは、多民族国家ですので、様々な国籍や民族の子どもが、保育園に通っています。園では、様々な言語であいさつをしたり、各国の楽器や伝統的な物を室内に飾ったりして、子どもたちが日常的に様々な国や先住民族の文化に触れられるよう工夫されています。また、オーストラリアの保育園では、黒い肌と白い肌の赤ちゃん人形や様々な国の服を着た、各国の特徴あるパペット人形などが親しまれています。これらも、子どもたちが乳幼児期から日常的にそれらで遊ぶことで、将来、人種差別をしないように工夫されていると思います。

5 つ目に、保育者の配置についてです。保育者は、クラスに最低 2 人はいなくてはいけないことに

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

なっていて、子どもに対する保育者の割合も日本より多く、目の行き届いた、落ち着いた保育をすることができます。また、保育者の労働条件はきちんと守られており、健康や安全についても、授業で学んだ通りに保育現場でもきちんとそれが保障されていました。保育者たちは、立場に関係なく意見を出し合ったりもしていて、保育者同士がお互いに一人の人間として尊重しあっているのがわかりました。また、オーストラリアの保育者は、自分に自信を持っていて、保育の反省をするときも、ポジティブな見方をすることが多いです。日本でも、否定的なことばかりでなく、子どもたちのよかった反応を反省の中に組み込んでいくと、保育の質の向上につながり、保育者も楽しく保育がしていけると感じました。何より、保育者自身が楽しみながら保育をしているのがとても伝わってきました。保育者が仕事を楽しめるということは、心に余裕があり、子どもに対しても最善の接し方ができると思います。そのため、保育者自身のことを考えた授業や仕組みがあることはとてもいいことだと感じました。

6 つ目に、スキンシップについてです。これは、まさに文化の違いだと思いますが、オーストラリアの人々は、乳児はもちろん、幼児、大人とのスキンシップも大切にしています。子どもが何かいいことをした時にハグをしたり、何かいけないことをしてしまって注意をされた後に、「さっきあなたがしたことはよくないことだったけど、あなたが悪い子だということではないのよ」という意味合いでハグをしたりします。また、お昼寝から目覚めた子どもに、「Give me a hug」と言ってハグしたりと、日常的にたくさんスキンシップをとっていて、愛情を体いっぱいで表現しながら子どもと接していることがよく伝わってきました。また、驚いたのが、子ども同士でもハグをしていたことです。それは、仲直りのハグだったり、慰めのハグだったり、大好きのハグだったりいろいろですが、友達を大切にしていることがよく伝わったし、何だかほっこりしました。日本人は体で愛情表現をすることが少ないのですが、こういった経験を幼いうちにたくさん積んでおくと、人を大切にするという気持ちを、また違った視点から身につけることができるのではないかと思いました。

このように、オーストラリアの保育園は、日本と異なるところがたくさんあり、実習を通してたくさんのことを学ぶことができました。これらの経験を参考にして、日本の保育で活かしていきたいと思います。

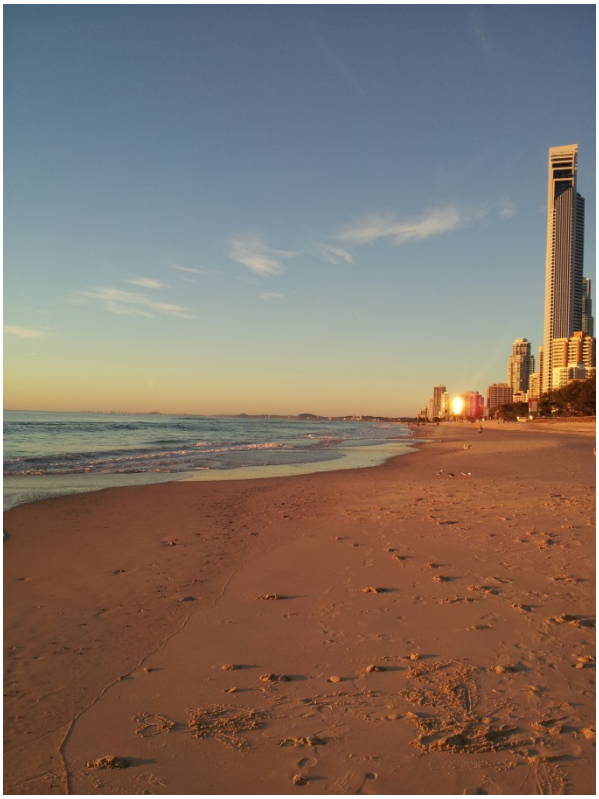
おわりに

私は、この留学生活で、日本では経験できないことを経験し、日本では出会うことができない人たちと触れ合うことができました。どれもが貴重な体験で、私の人生の財産となるようなものになりました。念願だったオーストラリアの保育士資格(Certificate Ⅲ in Early Childhood Education and Care)

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

を取得することもできました。今回の留学で、私の視野は飛躍的に広がり、将来は、デンマークへ留学し、さらに別の国の保育を学びたいと考えています。

保育を勉強するために留学していたと言うと、「保育で留学なんてすごいね。」と言われることがよくあります。確かに、珍しいことではあるかもしれませんが、海外の保育から学べることはたくさんあります。日本にいるだけでは学べないこと、思いつかないようなことがあると思います。子どもが好きで保育に興味があり、英語が好きで海外にも興味があるという人はたくさんいると思います。そういう人たちは、恐れず海外に出て、保育の勉強をしてもらいたいです。将来、いろいろな国の保育のよい面を日本の保育に取り入れたり、日本の保育のよいところを海外に伝えることで、世界の国々の保育がより向上していけるような仕組みを作ってみたいと私は考えています。



最後に、私の留学生活を支えてくださった多くの日本の方々、オーストラリアの方々に感謝申し上げます。また、この留学は日本学生支援機構の「平成 26 年度海外留学支援制度(短期派遣)」において、名古屋短期大学「オーストラリアにおける保育資格取得プログラム」として採択していただいており、多額の経済的支援をいただいたことによって実現しました。心より感謝申し上げます。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.